

天心焼とその歴史

～ 天心が想い、大観が描き、雨情が読んだまち ～

■はじめに

北茨城市は、海と山の豊かな自然や、歴史・文化などの多くの観光資源を有しており、自然と文化が一体となった魅力的な多種多様な文化施設、観光地に恵まれた地域です。

しかし、各々の施設が独立し、お互いが相乗的な効果を持ち合わせていないことが課題で、市としても、滞在型の観光地を目指し、「ブルー（海）ツーリズム」と「グリーン（山）ツーリズム」を推進しています。



■北茨城市における窯業の歴史

・享保13年（1728年）「石打場御前留土之次第事」に操業されていた窯場についての文献が見られます。

・7か所の窯跡（大塚窯、日棚窯、石岡窯、木皿窯、榎木内窯、背踏窯、福田窯）が確認されています

・松岡・日棚・大塚・石岡村の陶器は、「手綱焼」と呼ばれ、品質は日棚、技術は大塚として他の追従を許さなかった。

・土瓶類など生活用品が多く明治初期まで続いたが、この存在は一部の愛好家を除いてほとんど知られていません。

・1971年に常磐西浦製陶株式会社（後のジャニス工業株式会社）を創立し、陶管・直管・異形管を製造しました。

■天心焼 ～ 蛙目（ガイロメ）粘土という全国的にも珍しい素材を使った「天心焼」を数多くの方に～

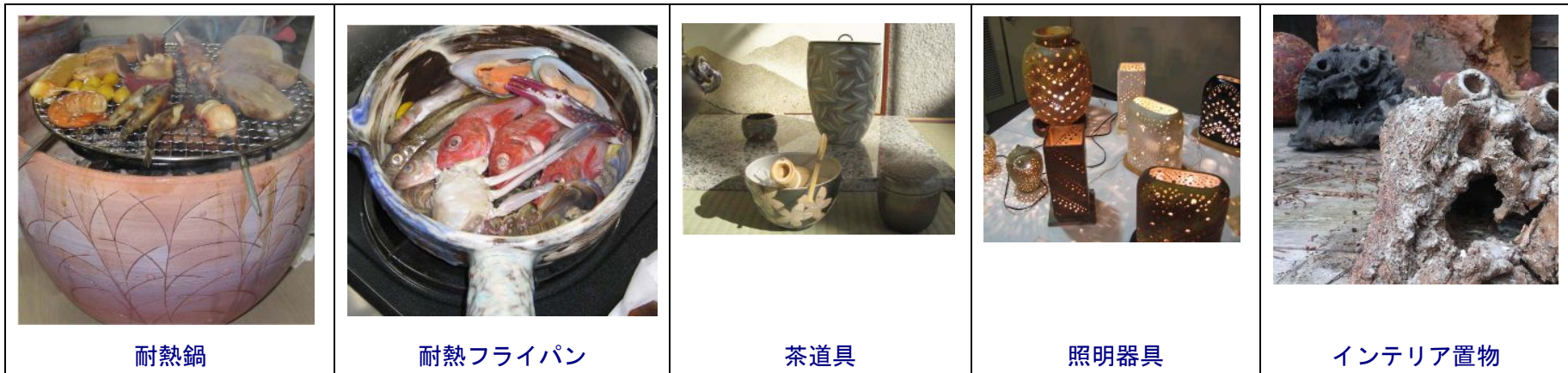
「天心焼」の由来は、五浦に日本美術院を移し、近代日本画の偉大な足跡を残した岡倉天心にちなんで命名し、1995年に商品化された北茨城市オリジナルの陶器ブランドです。「天心焼」は、常磐来炭層の露頭線に産出する蛙目粘土を原料として作られたものです。特徴あるきめ細かい粘土と1250℃の高温で焼かれた土の芸術は新しい文化を創造します。

①天心焼研究会作家

會田恵美、秋元郁子、浅野健治、川松正史、菊地秀利、菊地美恵、前田保、真木未波

②作品の一例

- ・北茨城産粘土の特徴を生かした耐熱製品（鍋、フライパン等）
- ・かつて「手綱焼」と呼ばれたものに倣った茶道具（茶入れ、花器等）
- ・現代風にアレンジしたオブジェ（照明器具、インテリア置物等）



③北茨城産粘土の特徴

北茨城蛙目粘土は、日立市～いわき市までの常磐炭層の下にあり、全国的にも珍しい性質を持っています。

- ・一般的な陶芸用粘土に比べ、きめが細かく表面が美しく仕上がり、成形時に磨きをかけると良い光沢が得られる。
- ・乾燥収縮が大きくロクロ成形では、薄手の製品など小物に適している。
- ・酸化焼成と還元焼成の中間で、赤味の火色を呈する。
- ・素地に含まれている鉄分が他産地よりも多い約3%程度を含む。

こうした性質を持つ粘土は全国的にも珍しく、天心焼の特徴となっています。

■北茨城市特産品普及促進事業「天心焼普及促進イベント」

～ 地域資源を融合させ、より活力のあるまちづくりを目指す ～

2006年の観光客数は162万人であり、観光資源を線でつなげ、ハード面とソフト面においても相乗効果を生み出すことが求められています。天心焼と北茨城地域の「海の幸」、「山の幸」、「文化施設」、「観光」などと連携し、都心からの集客を目標にしています。

北茨城市において、江戸時代中期に窯業生産が興り、昭和40年代に工業生産で栄えたこと、等の一部の愛好家を除いてほとんど知られていないのが現状です。ここで、蛙目粘土という全国的にも珍しい素材を使った「天心焼」を数多くの方にご覧いただきたいと考えております。

【連絡担当者】

天心焼研究会 代表 武子能久（株式会社創栄）

〒319-1701 茨城県北茨城市平潟町 897-235 TEL/0293-46-8730

北茨城市商工会 藤島匠

〒319-1542 茨城県北茨城市磯原本町1-3-9 TEL/0293-42-2511

茨城県工業技術センター窯業指導所 常世田茂

〒309-1611 茨城県笠間市笠間 2346-3 TEL/0296-72-0316